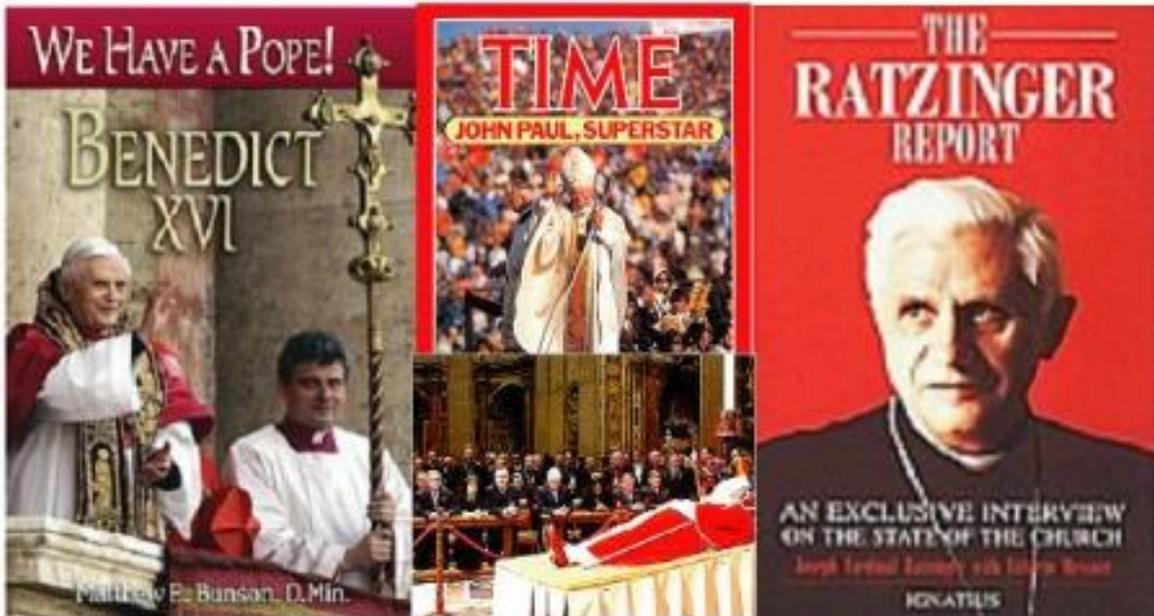




Anchor

アンカー 2005年6月 35号



最後のローマ法王の選出 黙示録17章

1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
							?
ピオ11世	ピオ12世	ヨハネ23世	パウロ6世	ヨハネパウロ1世	ヨハネパウロ2世	ベネディクト16世	サタン
1922 - 1939	1939 - 1958	1958 - 1963	1963 - 1978	1978	1978 - 2005	2005年4月19日	?
ラテラン条約 1929年				33日だけ即位	致命的傷?	短期間だけ支配	キリストを装う
5人は倒れ					今おる	やがて来る	滅びに至る

新法王選出の意味

黙示録 17 章の 7 人の王



「あなたの見た獣は、昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて、ついには滅びに至るものである。地に住む者のうち、世の初めからいのちの書に名をしるされていない者たちは、この獣が、昔はいたが今はおらず、やがて来るのを見て、驚きあやしむであろう。ここに、知恵のある心が必要である。七つの頭は、この女のすわっている七つの山であり、また、七人の王のことである。

そのうちの五人はすでに倒れ、ひとは今おり、もうひとは、まだきていない。それが来れば、しばらくの間だけおることになっている。

昔はいたが今はいないという獣は、すなわち第八のものであるが、またそれは、かの七人の中のひとりであって、ついには滅びに至るものである。」黙示録 17:8 - 11

ヨハネ・パウロ 2 世が亡くなり、新しい法王が選出された。ラッツィンガー枢機卿は、ドイツ人の超保守派（原理主義者と言うべき）で、しかもナチス青年部ヒトラー・ユーゲントの一員だったユダヤ人とは対極に位置する人物である。

今年 4 月に亡くなった「空飛ぶ法王」ヨハネ・パウロ 2 世は、1981 年に一度暗殺されかけたが、その犯人をゆるし、世界に向かっては、謝罪外交と平和工作のゆえに「その致命的な傷がいやされ」、全世界の人々の人気スターになった。インターネットはその法王への賞賛で満ちている。実に黙示録 13:3 に「全地の人々は驚きおそれ」ローマ法王教に注目を寄せるようになった。世界のマスコミもこぞってこの法王を称えた。

世界各国のマスコミはトップニュースとして取り上げたそうだ。

新法王にラッツィンガー枢機卿

【バチカン市 19日 ロイター】

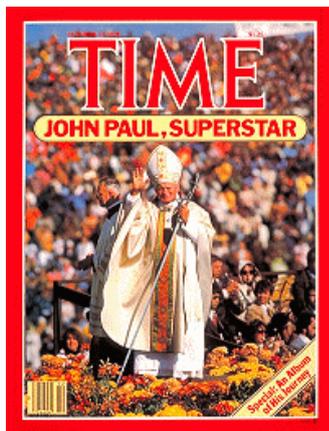
ローマ法王庁(バチカン)で行われていた新法王選挙(コンクラベ)で19日、第265代法王に、超保守派のヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿(法王庁教理省長官)が選出された。この結果は、保守派のカトリック教徒を喜ばせたが、より自由な法王を望んでいた穏健派は驚きを表している。法王名はベネディクト16世。

◎ ローマ法王ヨハネ・パウロ2世の逝去をめぐる日本の論調

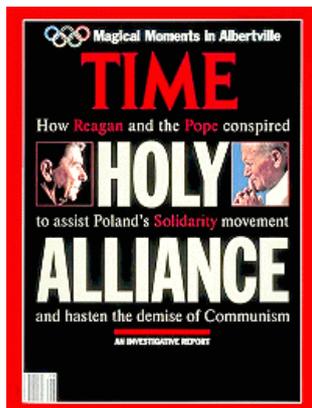
【国際】 2005年4月5日

ローマ法王ヨハネ・パウロ2世の逝去を、日本の主要各紙は4日付朝刊で最大級のニュースとして扱った。全国紙5紙のうち朝日新聞、毎日新聞、産経新聞は1面トップ記事で、読売新聞と日本経済新聞は1面の準トップ記事で逝去のニュースを報じた。これら5紙はいずれも社説欄、国際ニュース面、社会ニュース面など3-4ページにわたって、ヨハネ・パウロ2世の評伝、業績をくわしく論じ、さらに法王逝去への日本国民の哀悼の気持ちを報じた。カトリック教会組織の最高位者の死に、日本のマスコミがこれほど大きな関心を示すのはまさに異例のことである。

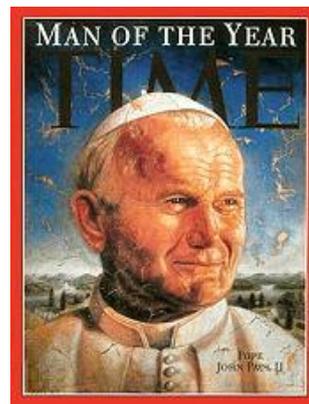
また小泉純一郎首相は、バチカンの日本大使館を通じ、「法王が世界平和のために尽力された功績に深甚なる敬意を表し、日本国民および日本政府を代表して哀悼の意を表する」とのメッセージを送った。



ヨハネ・パウロ
スーパースター



聖なる同盟-ポーランド連帯を助け、共産主義を
倒すためのレーガンとヨハネ・パウロの陰謀



時の人

国際ニュース 更新日時：2005年04月09日(土)00:08

asahi.com
朝日新聞の記事検索サービス

2005年04月09日(土)

法王の死悼み、ローマに400万人 「史上最大の葬儀」

ローマ法王ヨハネ・パウロ2世の8日の葬儀は、約160の国・地域から首脳らが参列し、バチカン周辺に詰めかけた100万人のほか、200万人がローマ市内で大画面に映し出された生中継を見守った。この日のために世界からイタリアに集まった信者は400万人とも言われ、「史上最大の葬儀」と地元メディアは伝えている。

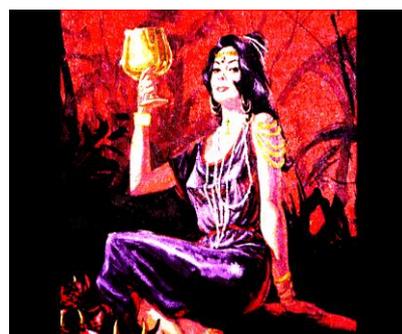
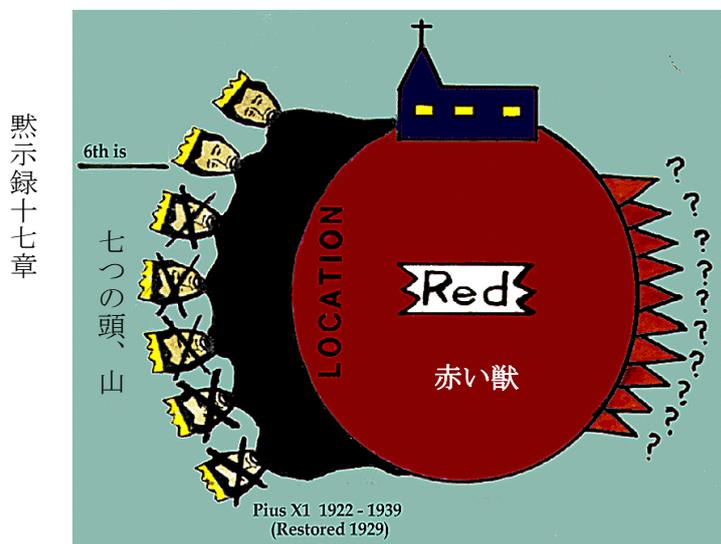
午前10時すぎ、聖職者らがサンピエトロ大聖堂から姿を見せた。サンピエトロ広場と周辺を埋めた人たちから一斉に拍手がわいた。数秒後に静まり返り、聖歌が流れ始めた。

法王のひつぎは祭壇の前に置かれた。両手を胸の前であわせる女性、涙をこぼす少年。法王の故国ポーランドの国旗が何本も大きく左右に揺れた。

葬儀のミサを行ったのはドイツ人のラツィンガー枢機卿。

1929年からローマ・カトリックの「頭」、法王を数えると、ヨハネ・パウロ2世は、6人目になる。その法王が亡くなって、新しい法王が選ばれたということは、それは最後の法王ということになる。

黙示録 17章の7人の王の解釈



黙示録17章の赤い獣とそれに乗っている大淫婦はローマ・法王教制度を表している。「昔はいた」というのは、538年から法王至上権でヨーロッパを支配した時代である。「今はいない」「やがて来る」という期間の7人の王の解釈について記しておきたい:

いくつかの解釈があるが興味深い二つを紹介しておこう:

1. 1798年から数える。帝国組織でなく、その頭、個人法王。同じ名前は1組、1山とする。「昔はいた」というのは、538～1798年まで。「今はいない」というのは、1798年から7人目のヨハネ・パウロ2世まで。最後の法王出現まで。ベネディクト16世は8人目で最後の王となり、「しばらくの間だけ支配する」。

昔はいた 538 -	獣	やがて来る 8人目 最後の法王 666
	今はいない 7人の王=頭=山 5人は倒れた 6人目はパウロ? 7人目はヨハネ・パウロ 665	

1798年以後の法王 1. ピオVI (1775-99) 1. ピオVII (1800-23) 2. レオXII (1823-29) 1. ピオVIII (1829-30) 3. グレゴリーXVI (1831-46) 1. ピオIX (1846-78) 2. レオXIII (1878-1903) 1. ピオX (1903-14) 4. ベネディクトXV (1914-22) 1. ピオXI (1922-39) 1. ピオXII (1939-58) 5. ヨハネXXIII (1958-63) 6. ノバロVI (1963-78) 今いる? 7. ヨハネ・パウロI (8月-9月、1978) 7. ヨハネ・パウロII (1978-2005、4月死去) 8. ???	7つの頭の名を数える例 頭の名前=ピオ ピオの数=1+2+3+4+5+6+7 +8+9+10+11+12=78 7つの頭 1 ピオピオXII(12) 2 レオ.....レオXIII(13) 3 グレゴリー.....グレゴリーXVI(16) 4 ベネディクト.....ベネディクトXIV(14) 5 ヨハネ.....ヨハネXXI(21) 6 ノバロ.....ノバロVI(6) 7 ヨハネ・パウロ、ヨハネ・パウロII(2) ピオ78+レオ91+グレゴリー136+ ベネディクト105+ヨハ231+ノバロ21+ヨハネノバロ2 =666 第8の王1 =666
--	--

獣の頭は、個々の法王のことを指す。ダニエル7章の豹はギリシャをあらわしていた。アレキサンダー大王の死後、ギリシャは四つの頭に分裂した。セレウカス、カッサンドル、リシマカス、トレミーの権力を指した。赤い獣の七つの頭はローマ法王教の頭、法王を指す。カトリック教会の「ヘッド(頭)」は法王である。山はピオ1、2、3、4、5、... . . . 11まで一つの山とする。

2. 1929年、法王教の傷がいやされ始めた、バチカン市国設立から7人の王とする。

黙示録17章の7人の王							
1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
							?
ピオ11世	ピオ12世	ヨハネ23世	パウロ6世	ヨハネパウロ1世	ヨハネパウロ2世	ベネディクト16世	サタン
1922 - 1939	1939 - 1958	1958 - 1963	1963 - 1978	1978	1978 - 2005	2005 4月19日	?
ラテラン条約 1929年				33日だけ即位		短期間だけ支配	キリストを装う
5人は倒れ					今おる	やがて来る	滅びに至る

ついに7人目の新法王が出現した。「しばらくの間、短期間」の支配とすれば、彼の時代に日曜休業令が發布されることになる。78歳の高齢である。ベネディクト16世は、選挙直後、自ら「短期間の支配」と発言していたとニュースは伝えている。



Pope Predicted a Short Reign to Cardinals

[Email this Story](#)

Apr 20, 6:29 PM (ET)

By NICOLE WINFIELD

VATICAN CITY (AP) - Pope Benedict ~~XVI~~ predicted a "short reign" in comments to cardinals just after his election, and his brother said Wednesday he was worried about the stress the job would put on the 78-year-old pontiff.

短期間の支配

その次に現れるのは誰であろうか？

「また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、『だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか』」。黙示録 13:4

「欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕として、サタンはキリストを装うであろう。教会は、救い主の来臨を教会の望みの完成として期待していると長い間公言してきた。今や大欺瞞者は、キリストがおいでになったように見せかける。地上のあちらこちらで、サタンは、黙示録の中でヨハネが述べている神のみ子についての描写に似た、まばゆく輝く威厳ある者として人々の中に現われる(黙示録 1 : 13 - 15 参照)。彼をとりまいての栄光は、これまで人間の目が見たどんなものも及ばない「キリストがこられた、キリストがこられた」という勝利の叫びが、空中に鳴り響く。人々が彼をあがめてその前にひれ伏すと、彼は両手をあげて、キリストが地上におられた時に弟子たちを祝福されたように、彼らに祝福を宣言する。

彼の声は柔らかく穏やかで、しかも美しい調べに満ちている。やさしい同情のこもった調子で、彼は、救い主が語られたのと同じ祝福に満ちた天の真理を幾つか述べる。彼は人々の中の病人をいやし、それから、キリストらしくみせかけながら、安息日を日曜日に変えたことを主張し、すべての人に対して、自分が祝福した日を聖とするようにと命じる。彼は、あくまでも第7日をきよく守り続ける者は、光と真理とをもって彼らに遣わされたわたしの天使たちの言うことを聞かないで、わたしの名を冒瀆している者だと宣言する。これは強力な、ほとんど圧倒的な感わしである。魔術師シモンに欺かれたサマリヤ人のように、多くの人々は、小さい者から大きい者にいたるまで、これらの魔術に心を奪われて、この人こそは「『大能』と呼ばれる神の力」であると言う(使徒行伝 8 : 10)。』大争闘下 398

神の大時計

神の定められた時

金城重博

我々は時によって生きている。

アラーム(目覚まし時計)で起きる。時計を見て仕事に出かける。学校もクラスも時計に従う。食事も時計に従う。飛行機や電車も時間で動く。約束日もカレンダーで日と時間を決める。テレビのプログラムも時間でつくられる。安息日も神の時計—太陽に従って守られる。

神は永遠の方で時に制限されるお方ではないから、事をなさりたい時にかつてになさるのだろうか。しかし、人類とこの地上の歴史に関する限り、神は非常に正確に時に従って事をなさるということを聖書の中に知ることができる。

人間が時間を作ったのではない。神が定められた時を自然界に発見しているのである。人間の時間は神が造られた天体の動きに合わせているのである。天文台の望遠鏡は、天体のある非常に小さな一点に焦点を合わせて、ある星がその一点を通過するその瞬間にこの地球上の時間を定めるのだそうだ。もし、少しでも、狂いが生じるようなことがあれば、月に、人間を乗せて宇宙船で飛ばすことはできない。日の出、日没、塩の満ち引きも前もって正確に知ることができる。こういうことで人間はその知恵を誇ってはならない。人間はただ、神の正確な時間を発見したに過ぎない。

「神はまた言われた、『天のおおぞらに光があつて昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、』」創世記 1:14

神は、ご自分の時と計画についてこう言われた：

「いにしえよりこのかたの事をおぼえよ。わたしは神である、わたしのほかに神はない。わたしは神である、わたしと等しい者はない。わたしは終りの事を初めから告げ、まだなされない事を昔から告げて言う、『わたしの計りごとは必ず成り、わが目的をことごとくなし遂げる』と。わたしは東から猛禽を招き、遠い国からわが計りごとを行う人を招く。わたしはこの事を語ったゆえ、必ずこさせる。わたしはこの事をはかったゆえ、必ず行う。」イザヤ書 46: 46:9-11

エレン・G・ホワイトも同じようなことを次のように言っている：

「過去の時代に主なる神は、ご自分の計画をその預言者に啓示された。全知のお方は、幾世紀の先を見通してその預言者を通して王国の興亡、諸事件が起こる幾百年前に予告された。神には現在も未来も等しく明らかであり、ご自分の僕たちにどうなるかをお示しになる。神の声は、各時代を通じて何が起こるかを人間に告げられる。王たち、君たちはその定められた時にその地位につく。彼らは、自分たちの目的を遂行していると思っているが、実際には彼らは、神がその預言者たちを通して与えられた言葉を成就しているにすぎない。彼らは神の偉大な計画の遂行にあたって割り当てられた役割を果たしているのである。諸事件が起こり、全能者が語られたことが成就するのである。」RH1900/2/6

「しかし主よ、あなたはとこしえにみくらに座し、そのみ名はよろず代に及びます。あなたは立ってシオンをあわれまれるでしょう。これはシオンを恵まれる時であり、定まった時が来たからです。」詩篇 102:12、13

確かに、人類のためにご計画を遂行されるために、神は正確に時に従って行動されていることがわかる。

- ◆ 洪水の時
- ◆ 出エジプトの時
- ◆ キリストがこの地上に来られる時
- ◆ キリストのバプテスマの時
- ◆ キリストの十字架の時

- ◆ キリストの復活の時
- ◆ キリストが昇天の時
- ◆ 聖霊が降下した時
- ◆ 「終わりの時」の始まる時
- ◆ さばきの時が始まる時
- ◆ キリストの再臨の時—神だけが正確の日時を知っているが、....。

ミラーは、次のように言っている。

「もう1つ真にわたしの心に感動を与えた証拠は、聖書の年代であった。……過去において成就した預言のできごとは、しばしば定められた期間内に成就したということ、わたしは見いだした。洪水までには、120年（創世記 6:3）。洪水に先だつ7日間、そして、預言された雨が40日間（同 7:4）。アブラハムの子孫の400年の寄留（同 15:13）。給仕役の長と料理役の長の夢のなかの3日（同 40:12-20）。パロの夢の7年（同 41:28-54）。荒野の40年（民数記 14:43）、3年半のききん（列王紀上 17:1）〔ルカ 4:25 参照〕、……70年の捕囚（エレミヤ 25:11）、ネブカデネザルの7つの時（ダニエル 4:13-16）、ユダヤ人のために定められた7週と62週と1週から成る70週（同 9:24-27）。一時に区切られたできごとは、みな、かつては預言に過ぎなかったが、その預言どおりに成就したのである。」大争闘下 9

ハバククは、神の時間表は遅れるように見えることがあるが、決してそういうことはなく、「定められた時」があることを明確にしている：

「この幻はなお定められた時を待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおければ待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。」ハバクク 2:3

セブンスデー・アドベンチストは、1260日、2300日の預言のタイムラインの始めと終わりについては動じない確信を持っている。しかし、1798年、1844年から160年も再臨近し、世の終わりは近しと説き続けて、もはや160年も過ぎた。キリスト再臨の切迫感は徐々に喪失し、地上歴史約6千年も説かなくなった。

時はまだ延びるのだろうか？神の定められた時は思った以上に迫っているのだろうか？

過去において、神は定められた時に従って行動してこられた。キリストは「時満ちるに及んで」受肉された。「神はモーセにご自分の民を救出する時が近づいていることを告げられた。」(ST,1-13 1881)

今日、私は、神は間もなくご自分の民の永久的な救出、解放についてその時を告げられると信じる。今日またもや時に関する研究が盛んになっているからである。勿論、「その日、その時は誰も知らない」という強力な議論が持ち出されるであろう。キリスト再臨の日時は「天からの神の声」で発表される時までには分からないが、ダニエル、黙示録の近年の研究では、日曜休業令が発布されると非常にその時が近いこと、どれほど近いかを知ることができるのである。

「ダニエルの預言にメシヤ来臨の時期が示されたが、だれもがそのことばを正しく解釈したわけではなかった。1世紀また1世紀と過ぎて行き、預言者たちの声はやんだ。圧制者の手はイスラエルに重く、多くの者は『日は延び、すべての幻はむなしくなった』といまにも叫ぶばかりであった(エゼキエル 12:22)。だが定められた広大な軌道にある星のように、神の目的は急ぐことも遅れることもない。大いなる暗黒とけむるかまどの象徴を通して、神はアブラハムに、イスラエルがエジプトで奴隷生活を送ることを示し、その滞在期間は400年であると宣言された。『その後かれらは多くの財産を携えて出てくるでしょう』と神は言われた(創世記 15:14)。このことばに対して、パロが誇りとする帝国は、全力をあげて戦ったがむだだった。神の約束に定められていた『その日に、主の全軍はエジプトの国を出た』(出エジプト 12:41)。同じように、天の会議では、キリスト来臨の時が決定的であった。時という大時計がその時間をさし示すと、イエスはベツレヘムにお生れになった。」1 希望 22

「イエスは、この世の両親との関係は無視されたのではなかった。彼は両親といっしょにエルサレムから帰って、骨折って働く彼らの生活を手伝わされた。イエスのご自分の使命の奥義を自分自身の心にかくし、ご自分の働きを始めるべき定まった時のくるのをおとなしく待たれた。ご自分

が神のみ子であることをみとめてから18年の間、イエスはナザレの家庭につながるご自分のきずなをみとめ、息子として、兄弟として、友人として、市民として、その義務をつくされた。」1希望 77,78

イエスは時を知って行動された：

イエスは天の大時計がちょうどその時を示した時に、お生まれになっただけでなく、公生涯を開始なさるためにメシヤとして立たれた時も、天父の時に従ったのであった。その公生涯に3つの面が覗える。

1. 「わたしの時はまだ来ていない」ヨハネ 2:4, 7:6,8,30, 8:20
2. 「時は近づいた」マタイ 26:18,45
3. 「時は来た」ヨハネ 13:1, 17:1, マタイ 26:45

イエスの死について：

ロマ 5:6「定められた時に…死んでくださった。」(新改訳、新共同訳)

「過越の小羊をほふることは、キリストの死の型であった。パウロは次のように言っている。『わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ』(Iコリント 5:7)。過越の祭りの時に主の前で揺り動かす初穂の束は、キリストの復活の典型であった。パウロは、主と主のすべての民との復活について、こう述べている。『最初はキリスト、次に、主の来臨に際してキリストに属する者たち』(Iコリント 15:23)。収穫に先だって最初に実った穀物が揺祭としてささげられたように、キリストは、将来復活の時に神の倉に収められる贖われた人々の、永遠の収穫の初穂である。

こうした型は、そのできごとだけでなく、その時に関しても成就した。ユダヤ暦の1月14日、すなわち1500年という長期にわたって過越の小羊がほふられてきたその月その日に、キリストは、弟子たちと過越の食事をともにし、『世の罪を取り除く神の小羊』としてのご自身の死を記念する式典を制定された。その夜、彼は悪人たちの手に捕えられ、そして十字架にかけられて殺されることになった。そして、われわれの主は、揺祭の束の実体として、3日目に死からよみがえり、『眠っている者の初穂』となり、贖われたすべての者の『卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変え』ることを実証された(同 15:20、ピリピ 3:21)。大争闘下 105

ジョナサン・グレーの「契約の箱」から引用しよう：

「正確に予告されていたのは、年月日だけではない。時刻までが預言されていたのである。神は、はるか昔に、次のように定められた。『第一のつきの14日には、夕暮れに、過ぎ越しのいけにえを主に捧げる』(レビ記 23:5)

『夕暮れ』とはヘブル人たちにとっては、『二つの夕の間』を意味する。第一の『夕』は、太陽が天頂を過ぎて始まり、第二の『夕』は日没に始まる。その中間は、午後3時(当時の第9時)だった。

過ぎ越しの子羊は、常に第一のつき(ニサン)の14日、昼の第9時にほふられたのである。

一世紀のユダヤの歴史家フラビウス・ヨセフスも『第9時頃に』いけにえを捧げるのが当時の慣わしだった。と書いている。

イエスは、ゴルゴタで十字架にかけられ、6時間後の午後3時に死んだ(マタイ 27:45-50)。

イエスが西暦31年ユダヤ月ニサンの14日午後3時に死んだことは、もはや疑う余地がない。彼は、死ぬ年ばかりか月、日、時刻に至るまで、ことごとく預言を成就したのである。」契約の箱 142-143

復活、昇天もユダヤの型に従っていた。ちなみに、次のことを覚えておこう：今後の預言の研究に大いにたすけとなると思うので。ユダヤ諸制度は福音であるばかりでなく、預言でもあった。

「キリストはユダヤ諸制度の基礎であった。型や象徴の全体系は、福音がぎっしりと詰まった預言であり、救済のさまざまな約束を包含して人々に示していた。」患難上 6、1希望 260

2000年前のキリストの初臨の事だけでなく、キリストの再臨もユダヤ制度の型と象徴に従うということは驚くべき事ではないか。ユダヤ諸制度に福音の美しさと終わりの時の諸事件のために新たな視点を置く時ではないだろうか。

「これと同様に、再臨に関連した型も、象徴的奉仕の中で指示されたその時期に成就しなければならない。」大争闘下 105

「悪魔が、自分の時が短いのを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。」ヨハネの黙示録 12:12。終わりの時の神の民はどうであろうか。何かテロ大爆発事件か、大地震が来る前に預言の研究により、目覚めたいと切に願うものである。

「最高の興奮が今日優勢である。しかし、恩恵期間は確実に閉じつつある。すべての人の運命が決定されようとしている。サタンは自分の時が短いを知っている。彼は、恩恵期間が終わるまで、永遠にあわれみの戸が閉じられるまで、人間をだまし、欺き、忙しくさせ、魂をうっとりさせようとその手下どもを配置している。」RH 1912/3/14

興味深いのは、サタンは再臨の時まで働く必要はないのである。恩恵期間が閉じられる時まで働けばよいのである！その後は、運命が決定されることはない。

「神の言葉を信じると告白する多くの者は、敵の欺瞞的な働きを理解していないようである。彼らは、時の終わりの近いことに気づかないが、サタンはそれを知っている。」IHP 309

「今日、サタンは、この世において偉大な力を持っている。彼は定められた時まで、この地上の所有権を持つことを許されてきた。この期間、不義がはびこり、男女はどちらの側につくかを選ぶ機械が与えられている。あらゆることをつくして彼は広い道を魅力的にし、狭い道を嘆かわしい、屈辱的な、不快なものにしようとしている。男女を食欲の耽溺にする天才的な計画をたてる。この墮落した時代において、やすっぽい、満足を与えない楽しみをあらゆるところに満たしている。左端は、これらの楽しみを魅惑的にすることによって永遠の事柄を見えなくしている。多くの者は、エサウのように、食欲のたんできによって長子の権利を些細なもののように思わせている。彼らにとって世の楽しみが天の権利より望ましいものに見えるのである」Upward Look,39)

我々は、「神の定められた時に、定められた方法で救出される時を待」たなければならない(RH1915/7/15)。

「この幻はなお定められた時を待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおければ待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。」ハバクク 2:3

「神の約束の成就是、長く延びるように思われることであろう。『主にあっては、1日は1000年のようであり、1000年は1日のようである』(IIペテロ 3:8)。おくられているように見えても、定まった時が来れば、『それは必ず臨む。滞りはしない』(ハバクク 2:3)。」あけぼの上 179

神の定められた時

神は、人間に「日」と「年」を数えることを計画された。

神ご自身が「日」を定義された。

創 1:4 神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。

創 1:5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第一日である。

神ご自身が最初の週(7日)を数えられた。創世記 1章

神ご自身が創造から洪水までの聖書の系図を計算された。

創 5:3 アダムは百三十歳になって、自分にかたどり、自分のかたちのような男の子を生み、その名をセツと名づけた。

創 5:5 アダムの生きた年は合わせて九百三十歳であった。そして彼は死んだ。

創 5:9 エノスは九十歳になって、カイナンを生んだ。

創 5:12 カイナンは七十歳になって、マハラレルを生んだ。

創 5:15、18、21、25、28、29、32、.....(ノアに至るまで)

創 7:6 さて洪水が地に起った時、ノアは六百歳であった。

神ご自身が洪水からその後の系図を続けておられる。

創 7:11、12 それはノアの六百歳の二月十七日であつて、(正確に同じ)その日に大いなる淵の源

は、ことごとく破れ、天の窓が開けて雨は四十日四十夜、地に降りそそいだ。

創 8:13 六百一歳の一月一日になって、地の上の水はかれた。ノアが箱舟のおおいを取り除いて見ると、土のおもては、かわいていた。

創 8:14 二月二十七日になって、地は全くかわいた。

創 9:28 ノアは洪水の後、なお三百五十年生きた。

神ご自身が洪水からアブラハムまでの系図を数えられた。

創 11:10 セムの系図は次のとおりである。セムは百歳になって洪水の二年の後にアルパクサデを生んだ。

創 11:12 アルパクサデは三十五歳になってシラを生んだ。

創 11:14 シラは三十歳になってエベルを生んだ。

創 11:16、18、20、22、24、26、.....

創 11:26 テラは七十歳になってアブラム、ナホルおよびハランを生んだ。

神がアブラハムの生涯を数えられ、聖書に記録された。

創 17:17 アブラハムはひれ伏して笑い、心の中で言った、「百歳の者にどうして子が生れよう。サラはまた九十歳にもなって、どうして産むことができようか」。

神は初めてアブラハムに 400 年のタイムライン（時間割）を与えられた。

15:13 時に主はアブラムに言われた、「あなたはよく心にとめておきなさい。あなたの子孫は他の国に旅びととなつて、その人々に仕え、その人々は彼らを四百年の間、悩ますでしょう。

15:14 しかし、わたしは彼らが仕えたその国民をさばきます。その後かれらは多くの財産を携えて出て来るでしょう。

神は年代を数えられた： 創世記からアブラハムまで—創世記

創世記から洪水まで

洪水からアブラハムまで

5:3	アダムからセツ	130	11:10	セム(洪水後2年)	
:6	セツからエノス	105		セムからアルパクサデ	100
:9	エノスから カイナン	90	12	アルパクサデからシラ	35
:12	カイナンから マハラレル	70	14	シラから エベル	30
:15	マハラレルから ヤレド	65	16	エベルから ペレグ	34
:18	ヤレドから エノク	162	18	ペレグから リウ	30
:21	エノクから メトセラ	65	20	リウから セレグ	32
:25	メトセラから レメク	187	22	セレグから ナホル	30
:28,29	レメクから ノア	182	24	ナホルから テラ	29
:32	ノアから 3人の息子	500	26	テラから アブラム	70
	セムハム、ヤベテ		17:17	アブラハム からイサク	100
7:6	ノア—洪水	600	25:26	イサクから ヤコブ	60
:11	601才の2月の17日に洪水が止まる				
8:13	601才の1月1日に地が乾いた。				

- ◆ 創造からアブラハムまで 約 2000 年
 - ◆ アブラハムからキリストまで 約 2000 年
 - ◆ キリストから我々の時代まで 約 2000 年
- マタイ 1:1-17 参照。

「地上歴史約 6 千年」 エレン・G・ホワイト

タイムラインは明記された時にはじまり、終わる。

出エジプト記 12:51 ちょうどその日に、主はイスラエルの人々を、その軍団に従ってエジプトの国から導き出された。

タイムラインは決して短くなったり、延びたりしない。

「だが定められた広大な軌道にある星のように、神の目的は急ぐことも遅れることもない。」1 希望 22

迫害は短くされるが、タイムラインは短くされることはない。

タイムラインと預言された事件は時間通りにはじまり、起こる。

ガラテヤ人への手紙 4:4 「時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせて、おつかわしになった。」

聖書のタイムラインは我々が時の流れのどこにいるかを示してくれる。

タイムラインはだいたい「悪いニュース」で始まる。例：

1. 創世記 15:13 タイムライン。アブラハムの子孫「イスラエル」はエジプトに 400 年間奴隷となる。
2. エレミヤ 25:12 タイムライン。「イスラエル」はバビロンに 70 年奴隷となる。
3. ダニエル 4:16 ネブカデネザルは 7 年間気違いとなる。
4. ダニエル 7:25 タイムライン。神の民は 1 2 6 0 年間法王教の奴隷となる。538-1798。
5. ダニエル 9:24 タイムライン。「イスラエル」のために「70 週」-4 9 0 年が定められ。
6. ダニエル 12:7 タイムライン。神の民は字義通り 1 2 6 0 日間迫害される。
7. ダニエル 12:11 タイムライン。神の民は再び「荒らす憎むべきもの」によって、あるいは黙示録 1 3 章の獣のによって字義通り 1 2 9 0 日間捕虜となる。

タイムラインは「よいニュース」で終わる。

400 年目に「イスラエル」はエジプトの奴隷状態から救出される。

70 年間目に「イスラエル」はバビロンから救出される。

7 年間目に ネブカデネザルは気違い状態から救われる。

1260 年間 神の民は法王教から救出される。

490 年間目に 神の民はユダヤ主義から解放される。

1335 日目に神の民は、天からの神の声で死の法令から救出される。

ただ「賢い者」だけが悟る。

ダニエル書 12:10 「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう。」

ノアの時代の人々は、箱舟に入るその時を知らなかった。(ノアが警告し続けたが)

ソドムの人々は、火が降る時を知らなかった。(二人のみ使いが訪れたが)

イスラエルはバビロンが押し迫る時を知らなかった。(預言者が明確に告げたけれども)

時を知ることは、非常に重要である。

ルカ 19:41 「いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、そのために泣いて言われた、19:42 「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの

目に隠されている。19:43 いつかは、敵が周囲に壘を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、19:44 おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。

エルサレムの滅亡は、世の終わりの型である。

「キリストは、不信と反逆によってかたくなになり、急速に神の刑罰を受けようとしていた世界を、エルサレムが象徴しているのを見られた。」大争闘上 8

「彼が言われた預言には、二重の意味があった。それは、エルサレムの滅亡を予告するとともに、最後の大きいなる日の恐怖をも予表していた。」大争闘上 12

「しかし、エルサレムに下った刑罰に関する救い主の預言は、もう一つの成就を見なければならぬ。あの恐ろしいエルサレム滅亡も、そのできごとのほんのかすかな影にしかすぎないのである。すなわち、われわれは、選ばれた都の滅亡のなかに、神の憐れみを拒み、神の律法をふみにじってきた世界の運命を見るのである。この地上で、幾世紀の永きにわたって罪を犯し続けてきた悲惨な人類の歴史は、まことに暗いものである。それを考える時、だれしも心痛み、気はなえてしまう。神の権威を拒否する結果は、実に恐ろしいことである。」大争闘上 25、26

「エルサレムの滅亡は、世界を襲う最後の滅亡の象徴である。エルサレムの破滅によって部分的成就を見た預言は、もっと直接的には、最後の時代に適用されるべきものである。」祝福 151。

「われわれは、キリストの言葉に示された教訓をなおざりにしないように注意しなければならない。キリストは、エルサレムの滅亡について弟子たちに警告を与え、彼らが逃れることができるように、滅亡の近いことを示すしるしをお与えになった。」大争闘上 27

イエスは、終わりの時がどれほど近いかを知るために、ダニエル 12 章でそのタイムラインをお与えになった。一旦日曜休業令が發布されたら字義通り 1290 日、1335 日、1260 日の期間、約 3 年半経ってしばらくしてキリストは再臨なさるというすばらしい慰めと力を迫害される聖徒たちに与えるものである。

なぜ、今までそれを知らなかったのだろうか？必要な時に知らされる。

「この幻の中で贖罪の計画が彼に示された。それは、十分なものではなかったが、当時の彼に必要な部分が与えられた。」あけぼの上 200

ダニエル 12 章と黙示録 13 章のタイムラン(時間表)は、我々に時の流れのどこにいるのかを知らせる。

「大終結の間際(前夜)まで延びているダニエルの預言的期間は、その時起こる諸事件にあふれるほどの光(光の洪水)を投げかけている。黙示録もまた、最終世代のための警告と教えに満ちている。」RH 1883 年 9 月 25 日

「ダニエル書 12 章を読み、研究しようではないか。それは終わりの時まで、我々すべての者が理解を必要とするであろう警告である」Letter 161, 1903 年

1. ダニエルのタイムラインは「その日、その時」を告げるものではない。
2. 諸事件にあふれるほどの光(光の洪水)を投げかけるので、我々に時の流れのどこにいるかを教えるものである。どれほど近いかをしめすものである。
3. 神の民は、時を知り、その時その時を数えることができるであろう。

イエスは正しいことを正しい時になされた。これが彼の義であった。世界の諸事件を見せられる時、預言の時の研究が急速に信徒預言研究家によって盛り上がって来たのを見ると、いよいよ「時は近づいた」と認知せざるをえない。今こそ目を覚まして準備する賢いおとめになりたいものである。「賢いものは悟る」と言われている。「まだ時は来ない」と心の中でひそかに思う悪い僕にならないように気をつけたい。

いつ主は来られるのか？キリスト再臨の時が近いことが分かるか？

キリストは花婿であり、教会は花嫁である。花婿キリストは花嫁のための場所を用意しに天に行かれた。場所の用意ができたならまた迎えに来られる。

別かされている愛する者と早く会いたい、いつ夫は仕事を終えて帰ってくるのだろうかと待ち続けるのは妻として当然である。「わたしは来る」と約束されてから、「遠いところに旅にでかけた」主人の帰りの日は何時かとキリスト信者はずっと待ってきた。19世紀の半ばに再臨運動が起こった。再臨の時をラブレターである聖書の預言から探り始めて起こった運動であった。(雅歌書は19世紀に愛するお方はいつ来られるかということに熱心に「たずねた」ことから起こった再臨運動を描いた実にすばらしい叙事詩であり、預言書である。3:1,2,3 ; 5:6 ; 6:1)。そして大失望を経験した後、「婚姻の式」のため至聖所に入られた花婿キリストを知って喜んで立ち上がったセブンスデー・アドベンチストは、全世界に向かって三天使の使命を述べ伝えることになった。主が来られる、もうすぐ主が来られると再臨使命が鳴り響き、世界に広がっていった。しかし、主はまだ来られない。

やがてラオデキヤ状態になる。「主人の帰りは遅いと心の中で思い」再臨の切迫に鈍感になっていく。最初の愛から離れていく。「日は延びた、幻はむなしくなったということわざ」が教会全体に広がる。

愛する者はいつ来るかという時の追求を預言の研究に求めることを怠ってきた。初めの愛に帰ると、当然いつか、いつかと問うはずだ。その日、その時は誰も知らないと思ひ込み「大終結の間際(前夜)まで延びているダニエルの預言」に進歩してこなかった。そのためにわが教会は「夜が明け明星」は上らなくなった。しかし、愛するお方は、ラブレター(預言書)を読み返し、終わりのときに「時に関する知識」を増し加えようとしておられることを感謝したい。「彼が来られるその日、その時は誰も知らないが、われわれは、それが近づく時について教えられており、また、それを知るように求められている」のである。(大争闘下 69)

- | | |
|--|---|
| 1. ガリラヤの風 かおるあたり
「あまつみ国は 近づけり」と
のたまいてより いく幾千歳ぞ
きたらせたまえ 主よ、み国を | 2. たたかいの日に いこいの夜に
みくにをしたう あつきいのり
ささげられしは いく度ぞ
きたらせたまえ 主よ、み国を |
|--|---|
3. 憎み争いあとを絶ちて
愛と平和は四方にあふれ
みむねの成るは いずれの日ぞ
きたらせたまえ 主よ、み国を

神のタイムライン(時間表)の研究が確信を与える。

1. 弟子たちはダニエル 9 章の 70 週の預言を学んでイエスをメシアとして信じた。
2. 再臨運動の始まりはダニエル 8:14 の 2300 の預言の研究から起こった。
3. 再臨運動の終わりはダニエル 12 章の 「ひと時、ふた時と半時」「1290 日」「1335 日」の預言がはっきりと解明されてから大いなる叫びへと発展するであろう。

「キリストの初臨の時に、『天国の福音』を宣べ伝えた弟子たちの経験は、彼の再臨の使命を宣言した人々の経験とよく似ていた。弟子たちが出て行って、『時は満ちた、神の国は近づいた』と宣べ伝えたように、ミラーと彼の仲間は、聖書に示されている最長にして最後の預言的期間がまさに終了しようとしていること、そして、審判の日が近づき、永遠の王国が始まろうとしていることを宣言した。時に関する弟子たちの宣教は、ダニエル 9 章の 70 週に基づいていた。ミラーと彼の仲間は伝えた使命は、70 週を含んだダニエル 8 : 14 の 2300 日の終結を告げるものであった。おのおのが伝えたことは、同じ大預言期間の異なった部分の成就に基づくものであった。」大争闘下 45

日曜休業令が終わりの時が近いしるしだ！

日曜休業令のことが聖書に書いているだろうか？

「日曜休業令」という言葉は聖書のどこにも出てこない。「三位一体」という言葉が聖書に一つも出て

こないからといって三位一体の教理を否定することはないであろう。その思想があるので便利のためにそのように使っているのである。同じように日曜休業令という言葉がなくてもそのことが書いている。どこに？

ダニエル 12:11 の「荒らす憎むべきもの」がそれだ。黙示録 13:獣の像と獣の刻印がそれだ。

「荒らす憎むべきもの」については主イエスも言っておられる。

「預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして下におりな。畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。」マタイ 24:15,16。

同じ事件についてルカによる福音書 21:20 - 22 には、次のように言っている。

「エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たならば」そのときは、その滅亡が近づいたときとりなさい。そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。市中にいる者は、そこから出て行くがよい。また、いなかにいる者は市内にはいってはいけない。それは、聖書にしるされたすべての事が実現する刑罰の日であるからだ」。

つまり、荒らす憎むべきものとは、昔のエルサレムの時には、ローマの軍隊であった。世の終わりにはローマ法王教である。ローマ法王教の權威のしるしである日曜礼拝の強要が法令をもってなされる時、その時が「荒廃をもたらすところの憎むべきもの—欽定訳」である。すなわち、それがエゼキエル 8:16 の太陽礼拝である。

「初代の弟子たちのように、荒れ果てた、人里離れた場所に逃れ場を見出すように強いられたる時はそう遠くはない。ローマ軍によるエルサレム包囲がクリスチャンに対する逃避の合図となったように、米国が権力を帯びてローマ教の安息日を強要する法令を出すようになったら、それは我々に対する警告となる。その時こそ比較的小さな都会を離れ、山間の人里離れたところに隠れ家を求める準備として、大都会を離れる時である。」5 T464,465

「新教教会が手を伸ばし、深淵の向こうにあるローマ教会の権力の手をとり、奈落の向こうにある降神術と握手しようとする時、また、この三者の結合による勢力下に米国が新教共和政体としての憲法の原則をことごとく放棄し、ローマ法王の偽りとあざむきの宣伝に道を備えるその時こそ、われわれは、サタンの驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである。」5 T451

ダニエル 12 章のタイムラインの預言は過去のことか、未来のことの詳しい研究は、ぜひ別紙「ダニエル 12 章の研究」を読んで頂きたい。

荒らす憎むべきものが立ってから 1290 日、1335 日、1260 日というタイムラインは、最後の神の民に対する警告であり、慰めである。

1260 日は始めはないが、神の民の救出で終わる。

1290 日は、荒らす憎むべきものが立てられる時から始まるが終わりが言われていない。日曜休業令から始まる。

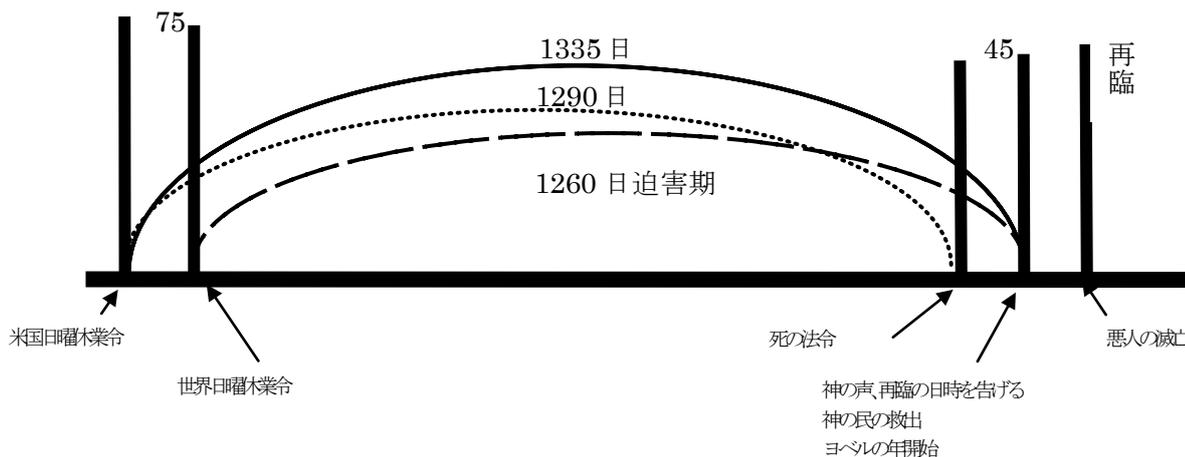
1335 日は、荒らす憎むべきものが立てられる時から始まるが終わりは言われていない。

最初の米国日曜休業令から強要される時までその差は 75 日ある。

1290 日が終わってから 45 日の「一定の期間」がある。まず死の法令が出る。「一定期間ののちには彼らを殺してもよい」。死の法令執行まで 45 日間。大争闘下 388、412

「待っていて 1335 日に至る者はさいわい(祝福)である」大争闘下 418

再臨の日時は、1335 日の終わりに発表される。それまで分からない。



ダニエル 12 章のタイムラインがマーヴィン・マックスウェル博士が言っているように、未来に起こるということは確実であるが、起算点と終わりは研究家によってまだ違いがある。

読者も預言の研究で、新しい発見、考察があったらぜひみんなに分ち与えてほしいと思う。この研究が絶対ではないと思う。よい刺激になればと願ってやまない。■

預言の研究と信仰

「きけシオンの山高く、いとおごそかに、
鳴りわたる角笛を、主はきたりたもう、
我らが待ちにし、主はきたりたもう。」

この美しい男性コーテットで始まる預言の声を未だに忘れることができない。私が中学 3 年の時、この預言の声を聞くのが楽しみであった。当時、連続講演会も「聞け！ 預言の叫び」というのが盛んであった。人生とはなんぞやと考えはじめる年頃に何とすばらしい希望を与えられたことであろう。受験勉強に忙しかった私の人生を一変させたのは、田舎の小さな集会所での預言の研究であった。ダニエル 2 章の研究であった。セブンスデー・アドベンチストは、最後の真の教会であるという確信は、未熟ではあったが、聖書をもっと深く学びたい、伝道者になりたいという願望を私に与えてくれた。

しかし、今日のセブンスデー・アドベンチスト教会に何という変化が見られることであろう。もはやキリストの再臨の切迫に心躍らせる預言の研究は講壇から聞かれない。我々の教会に「新しい神学」が入り込んできたからだ。我々の教会は預言の研究で生まれた特殊な民であった。キリスト教は愛だ、律法ではなく十字架を掲げよう、福音を説き終末の警告をするな、ただ信ぜよ、ケアリング チャーチ、セレブレーション、教会成長等々の強調の下に、教理の研究、預言の研究がすっかり影を潜めている。勿論、前者は重要であるが、同伴すべきものが欠けているのである。「神が合わせられたものを、人は離してはならない」のである。十字架から十戒は引き離してはならない。福音と律法を引き離してはならない。福音と警

告を引き離してはならない。信仰と悔い改めを引き離してはならない。ケアをする教会、賛美する教会、活動する教会等々はみな聖書の教えていることである。しかし、神が合わせられたものを引き離すからアドベンチスト焦燥という症候群が現れているのではなからうか。不信、いらだち、あせり、信仰の破船等々は、確実な預言の言葉の研究をとおして「明けの明星」が心に輝かないからではないだろうか。

預言の研究の重要性について靈感の言葉は何と言っているだろうか？

ペテロは言う：

「また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。」2 ペテ 1:19(新改訳)

ヨハネは言う：

「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。」黙示録 1:3

「見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである。」同 22:7

パウロの信仰の基礎はゆるぎない預言のことばであった：

「パウロは自分の信仰の変化は、衝動や熱狂にかりたてられたものではなく、抵抗できない力によってなし遂げられたものであると述べた。彼は福音を提示するにあたって、キリストの初臨に関する預言を明白に教えようと努めた。そして彼は結論として、これらの預言が文字通りにナザレのイエスに成就したことを告げた。彼の信仰の基礎はゆるぎない預言のことばであった。」患難上 132。

我らの主イエスは預言をどのように位置づけられたであろうか：

「イエスは非常に熱心に預言を説明し、神のみことばのもっと綿密な研究に人々を目覚めさせようとされた。」1 希望 180

期待が打ち砕かれて失望していた弟子たちにイエスは預言の研究で彼らの信仰を燃やしたのであった。

「こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしてある事どもを、説きあかされた。それから、彼らは行こうとしていた村に近づいたが、イエスがなお先へ進み行かれる様子であった。そこで、しいて引き止めて言った、『わたしたちと一緒に泊まり下さい。もう夕暮になっており、日もはや傾いています』。イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいられた。一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。彼らは互に言った、『道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか。』ルカ 24:27-32

預言の霊の説明：

「復活後、イエスは、エマオ途上の弟子たちに現われ、『モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしてある事どもを、説きあかされた』(ルカ 24:27)。弟子たちの心は感動した。信仰が燃えた。イエスがご自分を彼らに現される前から、彼らは、『新たに生れさせ』られ、『生ける望みをいだかせ』られた。彼らの理解を明らかにし、『確実な預言の言葉』の上に信仰を確立させることが、イエスの目的であった。彼は、真理が、単にそれが彼ご自身のあかしによって裏付けられたからだけでなく、型としての律法の象徴と影、そして旧約の預言によって提示されたところの、疑う余地のない証拠のゆえに、彼らの心にしっかりと根をおろすよう望まれた。キリストの弟子たちは、自分たちのためばかりでなく、キリストに関する知識を世界に伝えるためにも、正しい理解に基づいた信仰を持たねばならなかった。イエスは、この知識を分け与える第1歩として、『モーセやすべての預言者』を弟子たちに示された。旧約聖書の価値と重要性について、復活の救い主がお与えになったのは、このような証言であった。」大争闘下 42

上記の引用文を要約してみよう：

預言の研究は目を開く。心を感動させ、信仰を燃え立たせる。なぜ、イエスはすぐにご自身を現

し、手っ取り早く彼らの目を開き、心を感動させ、信仰を燃え立たせることをされなかったのだろうか。主観的な体験も大事であるが、預言の研究は、客観的な確信を与えてくれる。

確実な預言の言葉の上に信仰を確立させることの重要性。

預言は疑う余地のない証拠を与える。

他に伝えるために正しい理解に基づいた信仰を持つことの重要性。

「キリストの来臨、キリストが聖霊によってあぶらをそそがれること、キリストの死、異邦人に福音が伝えられることなどについて、その時期がはっきり示されていた。こうした預言をさとり、それがイエスの使命の中に成就されているのを認めることは、ユダヤ民族の特権であった。キリストは弟子たちに、預言の研究が重要であることを強調された。イエスは、彼らの時代についてダニエルに与えられた預言にふれ、「読者よ、悟れ」と言われた(マタイ 24:15)。復活後キリストは、「聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを」弟子たちに説明された(ルカ 24:27)。救い主は、すべての預言者たちを通してお語りになっていた。「彼ら……のうちにいますキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光とを、あらかじめあかしした」のであった(1ペテロ 1:11)。キリストは弟子たちに、預言の研究が重要であることを強調された。」1 希望 288

「キリストは、聖書の歴史のアルファであるモーセの書から始めて、聖書全体を通じて、ご自身に関する事柄を解説された。もしキリストが最初にご自分を彼らにお知らせになったら、彼らの心は満足してしまっただろう。喜びのあまり、彼らはもう何も求めなかったであろう。彼らは、旧約の型と預言を通して、キリストについてたてられているあかしを理解する必要がある。これらのものの上に彼らの信仰が築かれねばならない。キリストは、彼らをさとらせるのに奇跡を行われず、聖書を説明することがその最初の働きであった。彼らは、キリストの死を彼らのすべての望みの消滅とみなしていた。ところがイエスは、ご自分の死こそ、彼らの信仰の最も強力な証拠であることを預言者の書からお示しになった。....

キリストの奇跡は、その神性の証拠である。しかし、イエスが世のあがない主であるというもっと強力な証拠は、旧約の預言を新約の歴史に照らしあわせることの中に見いだされる。3 希望 333

弟子たちに主の十字架の死と復活がイエスの預言によってはっきり示されていた。しかし、彼らは試練に備えができていなかった。我々も同じ危険を犯す可能性が大いにある。

「救い主は十字架におかかりになる前に、弟子たちに、ご自分が殺され、墓からよみがえられることを説明された。そして天使たちがその場において、主のみ言葉を頭と心に深く印象づけた。しかし、弟子たちは、この世においてローマのくびきから解放されることを期待していたので、彼らの望みの中心である主が不名誉な死を受けられなければならないという思いに耐えられなかった。彼らが覚えていなければならなかったみ言葉は、その心から消えさり、試練の 때가やってきました時には備えができていなかった。イエスの死は、まるで主がなんの予告もしておられなかったかのように、彼らの望みを徹底的に打ち砕いたのであった。キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。」大争闘下 359

預言の研究は救いと関係があるだろうか？ 「無視することは致命的」大争闘下 69 必読！

今日、教理が人を救うのではない、預言は人を救わないと言って預言を軽視することは真に嘆かわしいことである。イエスも、パウロもあれほど預言を信仰の基礎として強調していたとするなら、今日の再臨信徒のことをどれほど悲しまれるであろうか。我々の救いと関係があるだろうか？

「サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとうかがっている。彼らは悩みの時に備えができていない。」大争闘下 359

「人間は、神が憐れみのうちにお与えになった警告を拒否して無事ではあり得ない。ノアの時代に天からの使命が世に送られた。そして、彼らの救いは、彼らがその使命をどう受けるかにかかっていた。」大争闘下 148

重要性の優先順位 最も重要なもの！

また、預言の研究が重要だからと言っても、重要性の優先順位があることを聖書は教えている。

「たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。」

つまり、どんなに預言の研究、タイムラインの研究に通じていても愛がなければ、人を救せなければ、人を憎んでいるなら、人をあるがままの状態を受け入れることができなければ、寛容で情け深くなければ、人をねたんでいけば、高ぶっているなら、誇っているなら、無作法であるなら、利己主義であるなら、いらだつ性質を克服しなければ、恨みを抱いているなら、不義を喜ぶなら、真理の研究に関心がなければ、「やかましい鐘や騒がしい鑿鉢と同じであり」「無に等しく」「いっさいは無益である」。

愛ほど安っぽく用いられている言葉は他にないかもしれない。我々にとってあまりにも抽象的かもしれない。愛は実生活に具体化されなければ何の役にも立たない。どんなことがあったにせよ、愛は他人を赦すことに最も分かりやすく表現されるのではないだろうか。主イエスは自らそれをデモンストレーションされた。神の子でありながら、あらゆるあざけりと侮辱の言葉をあびせられるだけでなく、天の大君の御顔につばきし、体をたたいて蹴り、その頭にいばらの冠を押し付けるという外部からの残忍な取り扱いを受け、内部から来る超人間的な苦しみとで見るべき姿がないほどになられた。十字架の苦しみは全人類の罪の苦しみで、父なる神さえ顔を覆われた。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と祈られた。ヨハネは「ここに愛がある！」と叫んだ。

ステパノは預言を解き明かして十字架のイエスを掲げた後に石打で殉教した。何という美しい姿であろう。

「彼は聖霊に満たされて、天を見つめていると、神の栄光が現れ、イエスが神の右に立っておられるのが見えた。そこで、彼は『ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える』言った。

人々は大声で叫びながら、耳をおおい、ステパノを目がけて、いっせいに殺到し、彼を市外に引き出して、石で打った。これに立ち合った人たちは、自分の上着を脱いで、サウロという若者の足もとに置いた。

こうして、彼らがステパノに石を投げつけている間、ステパノは祈りつづけて言った、『主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい』。

そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、『主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい』。こう言って、彼は眠りについた。」使徒 7:55 - 60

我々も聖霊に満たされているなら、「神の栄光をあらわす天」を仰ぎ見るであろう。

もろもろの天を歩いていかれた我らのさきがけとなられた憐れみ深い大祭司を見るとき、神の栄光にあずかることができるのであろう。

イエスの「完全な純潔さを凝視する」ときに栄光の冠、栄光の衣を賜る特権にあずかるのであろう。

こんな美しい生き方をしたい。こんな美しい死に方をしたいものだ。

初代文集 139 ページに次のように書いている：

「1850年、6月27日に与えられた幻の中で、わたしと一緒にいる天使が、「時はほとんど終了している。あなたは、イエスのうるわしいかたちを十分に反映しているであろうか」と言った。それからわたしの注意は地上に向けられた。そして、第三天使の使命を最近信じた人々は、もっと準備を整えていなければならないことを見た。天使は、「準備しなさい、準備しなさい。あなたがたは、これまで以上にもっと世に対して死ななければならない」と言った。彼らのために大きな働きがなされるべきであったが、それをする時がほとんどないのを、わたしは見た。」

①時の切迫を知ることと ②イエスの品性を反映することとは両立しなければならない。どんなに預言に通じていても、天にもっていける唯一のもの—品性がイエスに似ていなければ、イエスのように「彼らを赦してください」と言えなければ天国からシャットアウトされてしまう。

水野源三の歌が好きである。

み神に深く 愛されているのに
共に生きる人を真実に
愛し得ない心を
砕いて、砕いて、砕きたまえ

み神に罪を 赦されているのに
他人の小さな過ちさえも
赦しえない心を
砕いて、砕いて、砕きたまえ

クリスチャンの日毎に経験する 悪霊との戦い

我々の重荷 アル&コレット・マーチン

私たちはアメリカ中を回って、人生のあらゆる方面における霊的戦いについての講演を持っています。各集会が終わったあと、どれだけ多くの人々が残って、目に涙を浮かべながら自分自身の体験を私たちに語ってくれるかは信じがたい程です。

私たちが家にいるときは、電話が一日に 20~40 回は鳴ります。これらの多くは悩みを訴えている電話です。未婚者との結婚をして激しい戦いを経験している人、性的罪の奴隷になっている青年男女、10 代の反抗的子供を持つ親、自殺をしたいとの衝動に駆られるクリスチャン、麻薬や性的乱交の中から抜け出そうとしている若者、など枚挙にいとまがありません。

現代心理学者らはこのような人々を助けていると主張しますが、それは人間の策を通してそれをしようとしているのです。彼らは、神が聖書の中で与えておられる道具を理解していませんし、用いようともしません。世間一般、またクリスチャンの間でも用いられている心理学は、実は悪魔自身から生まれたものなのです。見掛け倒しの専門用語で人々を魅惑し、自分はこれを通して助けを受けることができると信じ込まされますが、多くの場合その反対の結果が出るのです。

心理学は人を治すためにあるのではないということを、今日人々は理解せず、その破壊的セラピーによって家庭を壊されていっています。ある著名な牧師が、心理学者に彼の治癒率について訊ねました。ためらいもなく心理学者は、「治る率などありません。というのも心理学者は人を治すのではなく、問題に対処する手助けをするだけです」と答えました。それは溺れている人に救命具を（しかも水に浮かない救命具を）投げてそのまま素通りし、本人が自分の問題に対処するがままにしているようなものです。このような心理学者の罠に多くのクリスチャンがかかるとは、何と悲惨なことでしょう。

クリスチャンの牧師や著述家たちでさえ、彼らのカウンセリングや教えに心理学や人間の理論を織り込んで、イエス・キリストの福音をはなはだ分かりにくいものにしていきます。多くの場合、サタンはいわゆる「クリスチャン・カウンセリング」という手口を通して教会内に心理学を持ち込んできました。キリスト教信者は、別の神々を拝まされていないでしょうか。あまりにも多くの場合、キリスト教が心理学化されたために、心理学がキリスト教化されてきました。

そろそろ私たちは、目に見えない勢力との超自然的戦いの只中にいることに気づかなければならない時なのです。そして、それは心理学的知性(主知主義)によってではなく、天来の力によって超自然の助けを得て戦わねばならないのです。私たちは、神の言葉を擁護するために、聖書に記されている神の方法で戦わねばなりません。

あなたを滅ぼそうと日夜働いているサタンと彼の悪霊どもとの日々の戦いにおいて、勝利を得ることができるよう、実際的な聖書の道具を提供し、罪の柵から解放を手助けをしたいというのが私たちの

心からの願いです。勝利はイエス・キリストによってのみ得られます。すなわち、イエスの御名と御言葉に示されている武器を使うことによってです。

この小冊子を通して私たちが提供する情報が、読者諸兄にとって祝福となりますようにと祈るばかりです。各自の状況に応じて、これらの道具を日々用いることによって多くのすばらしい証が聞けることを期待しています。あなたのために発揮される天の力を目撃すると、あなたの心にその大なる解放者であるイエス・キリストをもっと知りたいという痛切な願いが沸いてきます。あなたにとって、日々イエスは、より現実的な存在となります。この親密な関係のために、あなたは他の人に分かち与えられる、わくわくするような経験を持つようになります。

この小冊子を読む前に、祈ることを強くお勧めします。あなたがこの情報を得ないようにと、闇の勢力はありとあらゆる手を尽くします。でも覚えていてください。イエスは囚われ人を解放するために来られたのです。今日もですか？そうです、今日も！

悪魔の影響力を認識する

数年前、私たちはカリフォルニア州のパームスプリングスで開かれた聖書協議会で、たまたまインドからの宣教師と話す機会がありました。霊の戦いについて話し合っている中で、彼は次のように言いました：「この国のクリスチャンたちは、悪霊はみなわが国（インド）ににいると思っっているようだが、言っておきますが、この国の方が悪霊の活動は活発です。私の国の人々は霊界が実在することを認めているので、イエス・キリストの力が、彼らを悩ませているどんな勢力よりも強力だと分かれば、彼らはすぐにイエス・キリストの名を呼び求めます。しかしアメリカの人々は、悪霊の活動を認めようとしません。従って、聖書が命じている方法で対応しようとしません」。

今日のクリスチャンの多くは肉欲や世との戦いを認めますが、サタンの勢力、つまり悪霊との戦いになると、それは世界の他の場所で起こることかのような態度をとります。彼らは、サタンとその手下どもは主として原始的で、教育のレベルが低い国で働いて、そこの無知な人々を利用するものだとばかり思っています。この教養ある社会において悪魔が精力的に活動しているという思想を抱くことすらばかげているというのです。私たちは悪魔よりも賢く、いずれにしてもクリスチャンは悪霊に憑かれることはないというのです。

これらの思想は、直接サタンからくるものです。そして、往々にしてクリスチャンはこれを受け入れています。悪霊の活動を見分けるには、自分自身の生活において霊の戦いが実際に起こっていることをまず理解しなければなりません。著名なクリスチャン著述家たちの間でさえ、「新約聖書のどこを見ても、クリスチャンが悪霊につかれた記述は全くない」と大胆に言う人がいます。何という盲目でしょう！イエスはヨハネ 8:44 において、教会の指導者であったパリサイ人たちに向かって、「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出て来た者である」と言われました。また彼らは、悪魔の欲望どおりを行おうと思っているのだとイエスは言われました。彼らは今日という牧師、教団の指導者たち、また理事長などに相当します。にもかかわらず、彼らは悪魔から出てきた者と言われています。悪魔の「欲望どおり」を行うには、ある程度サタンに支配されていなければなりません。

イエスがマタイ 10:5-6 において、「異邦人の道に行くな。またサマリヤ人の町にはいるな。むしろ、イスラエルの家の失われた羊（自称クリスチャン）のところに行け」と彼の弟子たちにお命じになったのには何らかの理由があったはずで、人々を教え、病人を癒すだけでなく、イエスは彼らに悪霊を追い出す力をも授けられました。もしクリスチャンは悪霊に憑かれないのであれば、どうしてこのようなことを言われたのでしょうか。マタイとマルコとルカの福音書は、今でいうクリスチャンたちの中で悪霊たちが活発に働いていた記述に満ちています。

マルコ 1:21-28/ルカ 4:31、32——会堂（教会）にいた汚れた霊につかれた人の記述。

ルカ 8:2——ここに記されている婦人たちは、イエスの一行について奉仕をしていた女たちです。でも彼らの中のある者たちは、悪霊を追い払ってもらった経験の持ち主でした。

ルカ 13:10-21——ここに登場する女性は、18年間も悪霊がもたらした肉体の病を持っていました。「十八年間もサタンに縛られていた、アブラハムの娘」と記されています。彼女はイエスに従う者、今でいうクリスチャンだったのでした。

サタンと罪は切っても切れない関係にあり、クリスチャンも罪と無縁ではないのです。クリスチャンが自発的に、故意に罪を犯すたびに、自分の身をサタンの領土に置くのです。このような状況ではサタンに支配権があり、多くの場合、ある程度その人を支配するのです。

「支配」という言葉は、悪霊に憑かされている、または悩まされている状態をよりの確に描写しています。聖書で悪霊に「悩まされている」とか「憑かされている」という時には、常にある程度、悪霊の支配を受けている時でした。ご自分が十字架にかかって苦しむことを述べられたイエスに反対したペテロは、「とり憑かれて」はいませんでした。少なくともその瞬間だけ、確かに彼の口はサタンに支配されていました。しかし、悪霊に憑かれてはいなかったにもかかわらず、イエスはペテロではなく、サタンをお叱りになりました。

どんな場合でも、悪霊の活動はいつも同じ方法で対処されました。つまり、悪魔とその悪霊どもを戒め、出て行くように命じられたのです。

要点はこうです。もしクリスチャンが自分の生活上一つの点においてもコントロールできていないことがあれば、他の力がその分野を支配しており、聖書の教えによれば、その力を戒めてサタンの力を打ち砕く必要があるのです。

悪霊に憑かれていますように、悩まされていますように、原則は同じです。私たちイエスを信じる者は、彼の名によってサタンと地獄のあらゆる軍勢に打ち勝つ絶対的権威が与えられているのです。

クリスチャンの牧師や著述家たちによって私たちが常に聞かされている神話、または嘘は次のような思想です：

「悪魔と聖霊は同時に同じ場所にいられない」。

クリスチャンがこの思想を好むのは、これによって偽の安心感が得られるからです。サタンと彼の悪天使たちもこの思想に大喜びします。その理由は、「支配」されている人がこれによって絶望に陥れられるからです。

もしもこの思想が真実であるならば（真実ではありませんが）、麻薬やアルコール依存症の人、売春婦、またオカルトに関わっている人などに、望みは一切無いこととなります。聖霊は罪の自覚を促すために、サタンと悪霊たちが宿っている人々の心に働きかけられないことを意味するのです。

もちろん聖霊と闇の軍勢が、互いに一致協力しないことは真実です。

しかし悪霊どもが働いているその場に聖霊もいなければ、墮落した人を悔い改めに至らせるために、その人の心と思いに聖霊は働きかけられません。

例を挙げてみます。光がない真っ暗な部屋があるとしましょう（これは失われた人の心を表します）。その部屋の片隅でマッチに火をつけたとしても、部屋の99%はまだ真っ暗です。次にランプをつけたとします。光は増えましたが、それでも部屋の大部分は暗闇に覆われています。ランプを次々とつけていけば、いずれ十分な光が発せられて暗闇はなくなります。でも十分な光がその部屋に持ち込まれるまでは、そこには同時に光と闇が存在したのです。聖霊が失われている人の心に働きかけるのも、ちょうどこのような有様です。

今日、悪魔は自分の時が短いことを知っていて、「ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて」います。問題は、クリスチャンである私たちがそれに気付いていないことです。それでお互いにけんかし、いがみ合って人生を送るのです。

エペソ 6:12 では、この戦いは人と人との間のものではなく、イエスに従おうとするすべての人または家族を滅ぼすことにひたすら集中している凶暴な霊の勢力との戦いであることが言明されています。このエペソ6章を読み進めていくと、この恐ろしい戦いのことがさらに書かれており、これらの荒れ狂う悪の力から守られるために、神の武具を身に着ける方法も書かれています。

多くの親たちは、家庭崩壊、子供の反抗、離婚などで大混乱に直面しています。でも、その理由を把握することができません。幼い子供や十代の青年たちも、彼らの自称クリスチャン両親たちがけんかばかりして、次々と離婚していくのを見て、理解に苦しんでいるのです。キリスト教会の指導者たちも、

世の中一般の夫婦とクリスチャン夫婦の離婚率が同じであるという信じがたい事実に関心を抱えています。憎しみ、怒り、暴力がはびこり、マスコミ誌はこれらの特集を出すほどです。

サタンがほえたけるししのように私たちに狙っていることを理解するのは、必要不可欠です。彼を避けて無視することは、私たちの永遠の生命を危険にさらすことです。この意図的な無知と盲目の故に、サタンはクリスチャンにこれほどの影響力と支配権を及ぼすことができるのです。

牧師であり著述家でもあるマーク・ブーベック氏は、次のように述べています：

「信者がサタンの人格と働きについて無知であり続けることは、危険な過ちである。

霊の戦いにおいて我々と個人的にこれほど関係のあるこの敵が、もし我々にとって神秘的かつ不吉な、また圧倒的な力を持つ抵抗できない怖い敵であるなら、我々は非常に不利な立場に置かれているのである。

我々は聖書的観点から、サタンの策略と攻撃の手段についてできる限り知っておくべきである。また我々がサタンと彼の闇の世に勝利できる聖書的根拠も知っているべきである」。

ここで、私たちの生活の中に見られるサタンのいわゆる「足跡」を見ていきましょう。これは直接戦いを挑まれていることであり、真剣に受け止めるべきことです。

- ◆ 家庭内の不和。夫婦また親子の間の不和。
- ◆ 反抗。親の権威に対する十代の子供たちの反抗。霊的無関心。時にはキリスト教の原則そのものをばかにします。
- ◆ 家庭でのしつけの欠如。聖書に基づくしっかりととしたしつけがなければ、悪魔と彼の悪霊どもが家庭を支配します。これは確かなことです！
- ◆ 怒り。老若男女を問わず、理由もなく急に怒りだしたり、幼い子供はかんしゃくを起こし、怒りをコントロールできません。
- ◆ 家庭にある良くない物、または遊びや活動。良くない種類の音楽、コックリさんなど悪霊と関わりのあるゲーム、悪いテレビ番組、ビデオやテレビ・ゲーム、麻薬、気味悪いグロテスクな形をした人形やおもちゃで、悪をかわいい無邪気なものに見せかける物。
- ◆ 外見や身なり。流行を追う派手な髪型やヘアカラー、神のみかたちに造られた人間を醜く、また滑稽に見せる服装。慎みのない身なり。
- ◆ 恨み。自分の配偶者、子供、親、または教会や近所の人に対する恨みや憎しみ。
- ◆ 深刻なうつ状態や、自殺したい気持ち。現代の若者たちに広く浸透しつつあるこのような絶望感。
- ◆ 不倫。今日、悪魔は男女の情欲を掻き立てて、夫婦間で不貞を働くように仕向けています。
- ◆ 肉体を攻撃。ヨブ 2 : 7 は、悪魔が肉体的に人を苦しめる例の一つです。マタイ 12 : 22 には、悪霊によって盲目また口の聞けない状態にされていた男の記述があります。マルコ 9 : 17-27 には、てんかんの悪霊に憑かれた息子の話が載っています。

エレン・G・ホワイト著

新刊小冊子：「**厳粛な訴え**」 350 円

夫婦、結婚を考える青年への厳粛な訴え！

キリストへの道 ポケット版、美しいカラフルなレイアウト 450 円

食事と食物への勧告 2,900 円

(私たちは、全ての病が悪霊によるものと言っているのではありません。しかし、人は食欲や情欲にふけさせようとする悪魔の誘惑に負けて、それによってまた多くの肉体の病が生じることは信じています。)

- * 肉体と言葉による暴力。家族の者に対する悪態や肉体的暴力。
- * 婚前交渉。悪魔は若い青少年たちの間で、神が夫婦に与えた最も美しいものの一つを破壊し、歪めたのです。
- * 恐怖と突然のパニック。パニックはこの頃疫病のように人々の間で広がっています。クリスチャンでさえ、幾千という恐怖を通してがんじがらめにされています。悪魔の最も効果的な道具の一つが、彼に対する恐怖です。恐怖を抱かせれば、イエスの名によって彼を叱り、追い出すことが出来ないのです。
- * 情欲。空想、自慰行為、またポルノなどにふける。

一人で十分

興味深いことに、家庭の和を乱すには、サタンに影響された人ひとりで十分なのです。家庭を救うために、私たちはこの悪魔の働きを見抜き、イエスの軍隊の兵卒とならねばなりません。

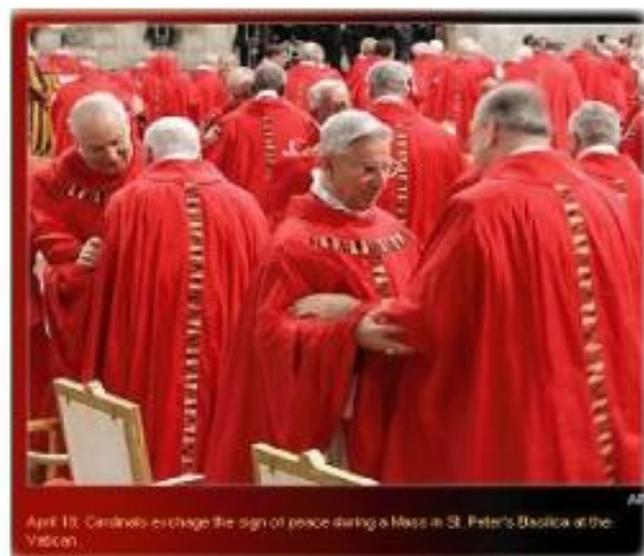
この章では霊の戦いの現実性と、家庭またあなた個人の生活において悪霊の影響を実際に見分ける方法を簡潔に述べました。神は、これ以外の悪魔の影響を見抜くことができるように助けて下さいます。

イエス・キリストは彼の御言葉のうちに、問題の解決法を与えて下さっています。それらの答えは他のどこにも見出されません。読者のある人は、魅惑的な心理学やいわゆる「聖書的カウンセリング」などといった療法に夢中になっているかもしれません。もしそうであれば、イエスだけが悪霊の力と罪の問題を解決することのできる唯一のお方であることを知っていただくよう、望んでいます。心理学界では罪や悪霊は存在しません。「キリスト教心理学者」やいわゆる「聖書的カウンセラー」によって書かれている学術的な本が、聖書の真理に取って代わっています。キリストは自ら私たちの罪を負われました。そして、彼だけがサタンと罪と死に勝利し、それによって私たちも同じ勝利を得ることができるようにして下さいました。今は、答えをイエスにのみ求めるべき時です！

砂川 優子 訳

* 新刊「性的罪と結婚の契約」を参照ください。





黙示録17:2-5,18

「『地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれている』。御使は、わたしを御霊に感じたまま、荒野へ連れて行った。わたしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣は神を汚すかすかすの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった。この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと自分の姦淫の汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、その額には、一つの名がしるされていた。それは奥義であって、『大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらとの母』というのであった。あなたの見たかの女は、地の王たちを支配する大いなる都のことである。」

発行：サンライズ・ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471

Tel: 0980-56-2783 Fax: 0980-56-2881 Email: sanchor@cosmos.ne.jp

郵便振込み番号：02080-0-12121

